

国際文化研究科創立 30 周年記念式典 研究科長挨拶

皆様、本日は大変お忙しい中、東北大学国際文化研究科創立 30 周年記念式典にお越しいただき、厚くお礼申し上げます。富永総長はじめ、ご来賓の皆様には、平素より多岐にわたるご支援をたまわり、重ねてお礼申し上げます。



国際文化研究科長 江藤裕之教授

国際文化研究科は、グローバル化、ボーダーレス化が進む世界を背景にして、さまざまな地域の文化、その文化が生まれ発達する場となる社会、そして、文化の伝播と相互の理解に不可欠な言語を国際的視点、学際的観点から研究し、その成果を学生の教育に還元していくことを目指して、1993（平成5）年4月1日、本学における最初の独立研究科、すなわち学部基礎を置かない独立した大学院のひとつとして設立されました。正確に申せば、昨年が創立 30 周年であり、本年は 31 周年となります。しかし、昨年は研究科西棟の改修工事と重なったことなどから、30 周年の記念式典を一年延ばし、本年の開催といたしました。

東北大学では文理融合系に分類される本研究科は、人文社会系、自然科学系のそれぞれの強みを活かした学際的な研究を進めており、「地域文化研究系」「グローバル共生社会研究系」「言語総合研究系」の3つの研究系に9つの講座が配置され、さらに、英語のみで授業・学生指導・学位審査を行う「言語総合科学コース（International Graduate Program in Language Sciences）」と「グローバルガバナンスと持続可能な開発プログラム（Graduate Program in Global Governance & Sustainable Development）」の2つの国際学位コースを有しております。

他の研究科に比べて規模は小さくはありますが、英語コースの在籍者比率は、文理融合系部局の中では最も高く、また、外国人教員比率は約 25%と、本学では 3 番目に位置しており、研究科の国際性、多文化性を反映しています。女性教員の比率も約 3 割に達しており、わが国ではじめて女性に門戸を開いた本学における男女共同参画の理想の実現、つまり、組織内のさまざまなジェンダーギャップの解消、女性研究者割合の増加、さらには、ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン推進に向けて寄与しています。

本研究科では、さまざまな国際共同研究が推進されており、とりわけ、言語学、それも第 2 言語習得、言語脳科学、心理言語学の分野で注目すべき業績をあげています。若手研究者の活躍が目覚ましく、これらの領域だけでも、TOP10%論文、すなわち論文の被引用数が各分野の上位 10%に入る論文を多く創出しています。また、日本学研究の分野では、学術書の出版を始め、定評のある学術賞の受賞も増えております。



国際文化研究科長 江藤裕之教授

また、環境科学、持続可能性科学の分野では、TOP10%論文に加え、持続的な産学連携、地方創生といった社会との共生を目指した研究・教育を推進しています。被災地での復興教育やSDGsの出前授業、民間企業と連携した社会実験の実施など、民間企業との共同研究など、メディアからも大きく注目されています。

さらに、特筆すべきは、本日こちらに来賓としてご来臨を賜っている日本システムケア様との共創研究所の設立です。共創研究所とは、産学共創の更なる振興と発展をめざして、東北大学が創設した制度で、共同研究や人材育成などの共創活動を企画・実施するために、大学内に企業との連携拠点を構築するものです。2021 年度に開始され、これまでは理系の部局が主導してまいりました。本研究科は文理融合系ですが、内実は文系教員が圧倒的多数を占めております。その意味で、実質的な文系部局としては本学で初めてとなる共創研究所を必ず成功させてまいり所存でございます。

さて、アップル社の創業者スティーブ・ジョブズ氏が 2005 年に米国カリフォルニア州のスタンフォード大学での学位授与式にて行った演説をご存知の方は多いと思います。「ハングリーであれ、愚か者であれ (Stay hungry, stay foolish.)」という言葉で終えた伝説の演説です。そこで、ジョブズ氏は、3つのエピソードを語っていますが、その最初が「Connecting the dots (ドットを繋げる)」です。人生にはいろいろな出来事がある、それが dot です。未来を向いてその dot がどのようにつながっていくかはわからないが、過去を向けば dot がどのようにつながり、そして今の自分があることがわかる。であれば、未来に向けて必ずつながっていく。だから、自分の直観と信念にしたがって今を生きなさい。そういった趣旨の、これから世に出る若者たちへの熱いメッセージでした。これは、仏教、特に禅に強い影響を受けたジョブズ氏ならではの人生観、世は因果関係からなっており、そこには「縁」が重要な役割を演ずるという考えを反映したものです。

本日、創立 30 周年の節目に、このような場を設けることができ、皆さまと集うことができましたのも、何かのご縁でございます。30 年と申せば、ひとつの世代が交代する時期です。人間でいえば、ようやく仕事も一人前となる年齢です。これまで諸先輩方から受けついだ遺産をさらに発展させ、次の世代へと引き継いで参ります。わが国初の国際卓越研究大学に認定された東北大学の一部局として貢献するため、さらなる飛躍に向けて、今後も一層の努力をしてまいりまいる所存ですので、皆様には変わらぬご支援とご指導をお願い申し上げます。本日は、まことにありがとうございました。